126号（月決め120円）昭和44年7月6日 日曜日
（昭和42年6月28日・国鉄東京局特別扱承認郵便物第503号 昭和42年3月16日第3種郵便物認可）

THE TOKYO OBSERVER
# オブザーバー

真実の追求 国際ビジョン 正義と平和
〔毎週日曜日発行〕
7月6日～7月12日

© 発行所 大森実国際問題研究所 東京オブザーバー
本社東京都渋谷区渋谷1の6の10
電話（代）(400)8351 振替 東京66836
編集発行人 大森実

暮らしの向上に 企業の発展に
お近くの《サンワ》をご利用ください
みなさまのお役に立つ 三和銀行

今週の主な内容

上海沖の米中会談（1・2面）
和解か挑戦か―ニクソンの賭け（1・3面）
【2面】学園紛争のニューパワー・先頭に立つ理工系学生、世間ばなし
【4面】林彪三国志、コンフィデンシャル、マンガ
【5面】エンピツ一本物語、サブカルチャー解論
【6面】今週の世界 「朴三選に高まる学生の不満」
【7面】世界の裏窓「アメリカ版八百屋お七」ブロンディ、ソ連小ばなし
【8面】国際事件簿「あばかれた"黒い市国"マフィア」社説、こちらワシントン、バックワルド

# 上海沖の"米中会談"

## 「フェニックス号」のスタッフォード君が報告

## 警備艇と問答五日間

### 「毛主席万歳」が最初のあいさつ

「フェニックス（不死鳥）号の六人」は、ついに上陸できなかった。しかし、上海沖での五日間にわたる"米中対話"は世界最大のライバルとしてにらみあう両国の敵対関係に、ほのぼのとした"友情"の芽をうえつけたにちがいない。「アメリカと中国の七億人民との間に"対話"の糸をつなぎとめ、対決の米中関係を友好の関係に変えよう」という単純素朴な目的で、長崎港を出帆したアメリカ人六人のヨットが、六月二十四日、一週間ぶりで長崎に帰ってきた。広島に住む人類学者アール・レイノルズ博士所有の「フェニックス号」（六月十五日付）に詳報ずみだが、この"義勇使節団"の一員、マイケル・スタッフォード君（米カリフォルニア大学サンタバーバラ校学生）は、二日本社を訪れ、「中国に上陸することはできなかったが、われわれの冒険は、決してムダではなかった」と"上海沖会談"のもようを「報告」してくれた。「フェニックス号」に乗組んだ六人のうち、船長のレイノルズ博士、禅僧のビクトリア師、日米会話学院のスコット先生の三人は、日本政府の再入国査証がないため、いまだお長崎港のブイにつながれたヨットで寝起きしている。「なんとか、みんなが上陸できるようにしてください」とスタッフォード君はいうのだが…

六月十三日に長崎港を出た「フェニックス号」は、アラフニにあうこともなく、東シナ海を航海、五日目の十七日には沿岸の島が黄色くなった。揚子江からほき出される黄土が、数百キロの海まで色付けるのだ。

ヨットに乗込んだのは、いずれも日本人の男性。国を超越されている日本人だけに、スタッフォード君をはじめ、このためにアメリカから飛んできた中国研究者のマスキー先生、小学校で教べんをとっている学生のウィロビーさんの合計六人。予期外の順調な航海に恵まれたのいえばいえるが、この中国人民の海洋警備隊に囲われるかたちになるとは。

午前十時、小雨がふっていたが長崎は静かで、港はこうしわあるる。上海から四十浬、一番近くの沖合のところまで近づいていた。

とのこと「フェニックス号」の近くにはあるとも思われる中国の警備船が二隻ゆっくりと近寄ってきたのである。

警備船の一隻は、小銃をもった四十人ほどの中国兵士が乗っていた。「フェニックス号」から「毛主席万歳」をよって「毛主席万歳」を叫ぶ。「毛主席万歳」とどなりかえす。警備船の乗員も「毛主席万歳」とどなりかえす。

ヨットに乗込んだ中国人民の姿が見えたが、「フェニックス号」から「毛主席万歳」をよって「毛主席万歳」とどなりかえす。警備船の乗員も「毛主席万歳」とどなりかえす。

「あなたがたは、私たちの敵にいる。すべてみな反対しない。中国人民の敵、中国研究者で、中国語の教師であるマスキー先生の通訳でわかった。

「アメリカの友人と中国の人民との友情を深めるために、われわれアメリカ人六人は日本の長崎を出帆してきた。せひ、人民にさせてください」とマスキー先生がいうと、

「中国人民の敵にはなりたくない」とのこと。

「あなたがたは、私たちの敵にいる。すべてみな反対しない。中国人民の敵、中国研究者で、中国語の教師であるマスキー先生の通訳でわかった。

「アメリカの友人と中国の人民との友情を深めるために、われわれアメリカ人六人は日本の長崎を出帆してきた。せひ、人民にさせてください」とマスキー先生がいうと、

「中国人民の敵にはなりたくない」とのこと

# 上海沖の米中会談

一面続き

## 「帰って平和運動を…」

### 中国から水、食料、燃料の贈り物

### 西口新宿駅でハンスト

#### 入管法反対の中国学生

7月1日、夜8時ごろ中国人学生たちがハンストを始めるとべ平連の「フォークゲリラ」が来て、"連帯"の合唱

それからわたしたちは大きなキャンバスに「国交無視」、「武器輸出反対」などと書いて、中国側に見えるように掲げた。

とたん、中国側からは相変らず反応はなし。しかし苦労してつくったのぼりが、これも一つの表現である。決して無駄ではなかったと思われる。

第五日目　再び十七名が旭日に集まる。

新宿駅西口地下広場周辺で、出入国管理法案に反対して、月曜日早朝から、彼らはハンストを始めた。

彼らは、「フォークゲリラ」が西口地下広場で歌っており、ハンストの前に、連帯のあいさつや、「インターナショナル」を歌ったりして、午前零時ごろまでの時間を過ごしたのだ。

わずか無期のハンストだったが、一日目夜は、ちょうどべ平連の「フォークゲリラ」が西口地下広場で歌っており、ハンストの前に、連帯のあいさつや、「インターナショナル」を歌ったりして、午前零時ごろまでの時間を過ごしたのだ。

中国人学生たちは、「入管法案」、「出入国管理法案」などに反対して、「国交無視」、「武器輸出反対」などと書いたのぼりを掲げ、ハンストを始めるとべ平連の「フォークゲリラ」が来て、"連帯"の合唱。

一日目、中国人学生全員が、「国際学生共産委員会」のメンバーで、中国人留学生代表の「ハンスト決行中」のぼりを掲げ、「国交無視」、「武器輸出反対」などを書いたのぼりを掲げ、ハンストを始めるとべ平連の「フォークゲリラ」が来て、"連帯"の合唱。

ハンストの前に、連帯のあいさつや、「インターナショナル」を歌ったりして、午前零時ごろまでの時間を過ごしたのだ。

わずか無期のハンストだったが、一日目夜は、ちょうどべ平連の「フォークゲリラ」が西口地下広場で歌っており、ハンストの前に、連帯のあいさつや、「インターナショナル」を歌ったりして、午前零時ごろまでの時間を過ごしたのだ。

中国人学生たちは、「入管法案」、「出入国管理法案」などに反対して、「国交無視」、「武器輸出反対」などと書いたのぼりを掲げ、ハンストを始めるとべ平連の「フォークゲリラ」が来て、"連帯"の合唱。

一日目、中国人学生全員が、「国際学生共産委員会」のメンバーで、中国人留学生代表の「ハンスト決行中」のぼりを掲げ、「国交無視」、「武器輸出反対」などを書いたのぼりを掲げ、ハンストを始めるとべ平連の「フォークゲリラ」が来て、"連帯"の合唱。

ハンストの前に、連帯のあいさつや、「インターナショナル」を歌ったりして、午前零時ごろまでの時間を過ごしたのだ。

わずか無期のハンストだったが、一日目夜は、ちょうどべ平連の「フォークゲリラ」が西口地下広場で歌っ

押しよせる〝自由化の波〟を感じさせるルーマニアの首都ブカレストのファッション・ショー

# 和解か挑戦か—ニクソンの賭け

一面続き

## 対ソ・対中へ橋頭ほ　共産圏多極化へ追討ち

### 対立する二つの評価

いま世界の反応は大きく二つに分れている。一つは、ニクソン大統領の呼ぶ東西関係改善のための「集団的」共定であるという評価である。つまり、これをもってアメリカの外交戦略の一環問であるというとらえ方である。いま、つまり、これもって「緊張」と言うのは当いま過ぎるあるにしても、機会に大きな力を方である。これは戦略というべきものではなく、単なる戦術に過ぎないのではないか、疑問の一点である。

すなわち第一の考え方は、ニューニクソン政権がこれからなすべきあろうが、第二の場合は、オールド・ニクソンの典型的行動と意思を表明するものとなる。この二つの評価はさて相反するものであるが、それぞれ両時に、ルーマニアを「ニクソン招待」という大冒険に踏ませ、指切らしと密接に関係しているのである。

【第一の場合】

ソ連の現体制に批判的であるばかりでなく、ルーマニアは昨年下ゴルバ大会新の出席を受け、「西ドイツの対外政策にあるルーマニアを問題とするとは、ソ連にとっては正に重大な挑戦である。

ソ連がこれをもって対決姿勢を硬化しても、その責任はあげてアメリカにあるという論を出すこともあるであろう。そして、この状況を通じて、ルーマニアに〝介入〟するのもしれない。アメリカの行動を直接の理由にする「第二のチェコ」事件は、もはやその〝前例〟だけの問題ではなく、ルーマニアを舞台とする直面国に対する直接対決に発展するのもある。

しかし、それにせアメリカの望むとおりの結果をもたらすこと、そして、ルーマニアの〝ポト化〟を捉えるとしてルーマニアの〝ポト化〟を捉えるとしてルーマニアの〝ポト化〟を捉えるとして

# Confidential

## 浮彫りになった機関紙部数

自民党が二千億を投じて作った政府資産公表資料書によって、はからずも各党機関紙の発行部数が浮彫りにされた。

「朝日新聞」の発行部数は九十万部、日刊で九十万部にすれば全国一位。「読売」の部数は、「朝日」の三分の一、「毎日」の三分の一、「産経」の三分の一、「日経」の三分の一、「サンケイ」の三分の一、「東京」の三分の一、「日本経済」の三分の一、「日刊工業」の三分の一、「日刊スポーツ」の三分の一、「スポーツ報知」の三分の一、「デイリースポーツ」の三分の一、「サンスポ」の三分の一、「東京スポーツ」の三分の一、「大阪スポーツ」の三分の一、「中日スポーツ」の三分の一、「日刊ゲンダイ」の三分の一、「赤旗」の三分の一、「公明新聞」の三分の一、「民社新聞」の三分の一、「自由新聞」の三分の一、「日本共産党」の三分の一、「社会党」の三分の一、「自民党」の三分の一、「民社党」の三分の一、「公明党」の三分の一、「共産

# エンピツ事物語

古森実

〈37〉

## 鬼十訓

一、なくなった宝塚の白鳥歌劇団長の鬼十訓。

私が、この鬼十訓を思いだすのは、まだ二十歳台の社会部記者時代である。

とにかく、古田さんの鬼十訓を紹介しよう。

一、仕事は自分でやるべきもので、与えるべきでない。

二、仕事とは、労手、労力と闘かわなければならない。楽でやるものではない。

三、大きな仕事と取組め、小さな仕事とはコツを示さうとする。

四、むずかしい仕事を頂戴、そしてこれを成し遂げるところに進歩がある。

五、取り組んだら放すな。殺されても放すな。自己完遂まで。

六、周囲を引きずり回せ、引きずるのと、引きずられるのとは、天地の開きができる。

七、計画をもて。長期の計画をもっておれば、必勝は手まち、そして正しい努力と希望が生れる。

八、自信をもて。自信がないから君の仕事には消耗、ねばりも、もとで厚みすらない。

九、眼は常に全面を。八方に気をくばって一方の隙をつくってはならぬ。サービスとはそのようなものだ。

十、業務を信頼する。業務は宝塚の花、核極の財産だ。でないと、君は単、財主義に陥る。

・歳暮の挨拶をこにやって来たのが、阪急人社後、一週間の体験をしゃべりだした。

「この間、阪急電車が三回脱線事故を起しましたよ」

「知ってるよ」

大事件であった。社会部は活動体制に入り、厳しい取材合戦が演ぜられたばかりである。

「あの時、僕は、電通の方へ、無線連中でいて、桜橋から、恒田さんやってきて、事故知ったのです」

「そしたら、先輩が、『無駄？　走ろ？』と一言散に出ていかれたのです。最寄駅のてを走りました。先輩は、阪急本社の宣部に行ってゆきます。僕もついて行きました」

「それで？」

私は、阪急の話に興味をもった。

「三日間はこっちにいました。先輩は、富宝歌劇団長の机に、つかつかと歩き、大声でいいました」

「何かいったな？」

「『電通です。まだ、明日の朝刊がとれます』、謝罪広告を出しなさい」

「これか」

「これでした。二重にうすすめ。僕たちが感謝で手配を待ち、帰ろうとしたとき、新聞社の社会部の連中が、どやどやと入ってきました」

「なるほど」

「『先輩がいいました、とも、新聞社より早かった』、

連絡者は、もう一つのエピソードを披露した。

「神戸の大部分を焦にしたのです。六甲山ろく、紫雲台のとある中、宗教団体関係の火事です」

「ほっか」

「走りまわったも。出火中の会員山岸服店に飛びこみ、電話の中にわり入って、部屋地を通り出ずしりの列に入りました。ホースで体中がびしょ濡れ、ずぶずぶ。それでも、汗びっしょりで地を通りながら、『僕、電通です。謝罪火広告出しませんか』」

「これか」

「これでもしたこも」

まさに、社会部記者たちの奮戦記である。取り組んだら放すな、殺されても放すな精神引きずり回せ根性である。

私は、鬼十訓の存在を知り、感激して反芻した。

## 一杯食った"事業魔"

毎日新聞の金澤一郎、小谷正一氏が古田芳雄氏に誘えられて、電通に入った。『電通業』と呼ばれ、毎日放送を毎日すすめ、ベストラブリーダーを作り、井上俊氏の小説『甲子園の天人』になった水谷氏を、電通に迎え入れた古田氏は、さすがにケイ眼だった。

「小谷さん、どういう風だ、古田さんの電通に入ったのですか」

ある夜、酒を飲みながらの話である。小谷氏は、こう答えた。

「あのな、ぶな話だがな。古田さんが、話があるから、八時に来いという。電通は八時すぎから勤務がある。とにかく、何の話と思って、八時に電通へいった。待たされる事、約をしてな……」

「古田さんは、これから部会があるから、一緒に来ませんか、っていっていった。幹部会の席へ、きたら、古田さんが、僕をみな紹介した」

「何と紹介した？」

「今日から、『社』と言う小谷正一氏？」

「ひっくりしたでしょう」

「ひっくりもあったもんか、やられたっと思った。だってっていったれ、という気になった」

「それで、電通に入社した？」

「まあ、そういうことも」

## 広告マンの仲人

電通に関係者という広告マンがいる。ある日、古田社長に呼ばれた。

「君、結婚の仲手を頼んでまえ」

写真を見せられた。福岡産は、にたこ美人だった。彼の性格はある。まじめ、もちろんいが、その中に、よく考えて……。もも思同受、優く、静っかって、頭がきは綺麗。

彼の自宅の隣に、廃屋にちっかいアンキ・スタンドが取りけられていた。彼は廃を抜かさばかりに知った。

祝、御婚約、吉田芳雄

## 二つの失敗

その古田さんを悩ましめたことがある。

私が、ニューヨークに行った時、古田さんが外遊して来た。一緒に食事をする約束が今、私のところへ申し入れがあった。

ニューヨーク在留の電通社の特派員諸君に挨拶がしたい、三年に中華料理を御馳走したいので、集めて頂きたい。

私は仲間に連絡をとった。

生憎、日曜だった。アメリカの旅では日曜日の電話は高くつくのが、相手が、年末部の古田芳雄氏である。各社の支局長は全員、宿泊に勢ぞろいをした。

私のところには、別の日本からの客があった。毎日放送の高橋信三社長である。高橋社長は私に、ゴルフを誘っていた。

「正午からの集会なら、半時間だけ時間を出せ、十二時半からゴルフに行こう」

私もその気になっていた。

だが、昼食の古田氏が到着し、十二時二十分になっても姿を見せないのだ。特派員仲間たちも全員揃ってそろっていた。

古田氏は十二時四十分に姿を見せた。一緒に楽しく食事が、ヤマとかはいいのに惜しいい。

古田氏が入ってくるなり、高橋社長が席を立った。

「おい、古田君、ここは二ューヨークやで、君はゴルフへ行かん、俺も君に会いたいのに十二時にやってきたが、ゴルフの子宅もある。悪いけど、失敬する」

続いて、もう一人の失敬。

同じ連れの社長が、アメリカの新聞王、ロイ・ハワードと古田氏を会わせてくれと頼んだ。

ハワード氏は入社初め、非常に多忙なスケジュールであった所、同じ連の金澤氏に、社長強引な会談出来を与えられ、取り組んだ成功。彼それ以来、特別の影響を受けていたからかもしれない、ロイ・ハワード氏の人柄が、古田芳雄氏に魅力としたなる理由があったからもあろう。

ところが悪い。

約束の金曜日の夕方、アポイントの時になっても古田氏が行方不明なのだ。ハワード氏の秘書の話から、私は狂ったように、古田氏の家へ、ハワード氏の秘書の代理として、ハワード氏の秘書の代理として、ロイ・ハワード氏の人柄が、古田芳雄氏に魅力としてのこの二人を会わせたら、おもしろいとなった。

ところが、

約束の金曜日の夕方、アポイントの時になっても古田氏が行方不明なのだ。

# 今週の世界

## 中国

### 48歳からの若返り

「党再建に肩並べる共青・紅衛兵」

「プロレタリア・アートに人民公社に」、「ブルジョアジーに打撃を」、「文化大革命万歳」――中国共産党の第九回大会（一九六九年四月）を前にして、サイゴンの采配機関紙「スター・アンド・ストライプス（星条旗）」は、二行ないし三行の見出しで、中国の文化大革命の進展ぶりを伝えている。

「文化大革命」は、一九六六年八月、中国共産党の第八回大会（一九六六年八月）で、毛沢東の提唱で開始された。毛沢東は、「ブルジョア反動分子を打倒し、プロレタリアートの文化を創造する」ことを目的として、「文化大革命五カ条」を発表した。

「五カ条」は、「ブルジョア反動分子の代表人物を暴露し、批判し、彼らの権力を奪い、学術界、教育界、文化界、ジャーナリズム界、および党、政府、軍隊の各部門の指導権を奪い、ブルジョアジーの

# 世界の裏窓

## "年収はたぶん五ケタ…" アメリカの天才少女の就職

かって天才児で知られたことのある（第一回東京都）天才少女ミチエ・スター（現二〇の最先端）が、マイアミのBMCにあり、コンピュータ・プログラムにとりくんでいるのだ。ミチエ氏は、「彼女の数学的才能は、断然、野球大いに発揮できるだろう」と期待している。

なにしろ知能指数二百一のスター嬢は、"ぜんぜんばかなことばかりかんがえている"三歳でアルファベットを覚え、五歳でスペルを覚えるいっぽうで、入学してからも二年で四学年をスキップし、十歳で大学に進学という超スピード。フロリダ大学の数学科を十五歳で卒業、その後大学院の博士課程に進み数学を教えていた。

「なぜかBMCの給料は安くはしません。年収はたぶん五ケタになる思うわ」とスターは楽しみにしている。

### うけるネコのカンオケ

アルゼンチンの海に近いチリのアンジスク市に住むアルベル・サリナス少年（三）は、ある朝、庭先の木の下に死んだ猫が三匹いるのを発見した。そこで一匹は生きているうち可愛がったのに、なぜ三匹の子猫はみんな死んだのだろうと思ったあげくのあげくの結論は、"神様がこれらの子猫を連れていってしまった"のだ。

そこで一念発起して、ネコたちのためにお墓をつくってあげることにした。はじめは墓の材料をのみこんでいるようだが、しだいに本格的になってきて、ついに木の板で棺桶をつくってしまった。

ちょうどこのころ、サリナス少年は、ネコたちのためにカンオケを作ってあげようと思ったのだ。

この話にスペインは"感"をしていたが、ある学校の子供、チャールス・ペイイザン・ペイイイ（三）は、ネコのロマンスをうらやましがっていたのだ。

ペイイザンは、カーッとなった。この話が、一度ヘイイイの家庭に入ったら、父と母と十人の子供たちは、ネコ騒ぎから寄付が来ないうちに、ペイイザンは、ネコ三匹になるのロマンスは、ペイイザンの二人は近くの山で小屋に泊っていたが、火をつけたのは彼らであることを白状した。スーザンは、ネコ騒ぎの上ラックからガソリンを洗いオケに

サリナスの父は、まいの計画、ペット用の墓場にとりかかっている。

### アメリカ版八百屋お七

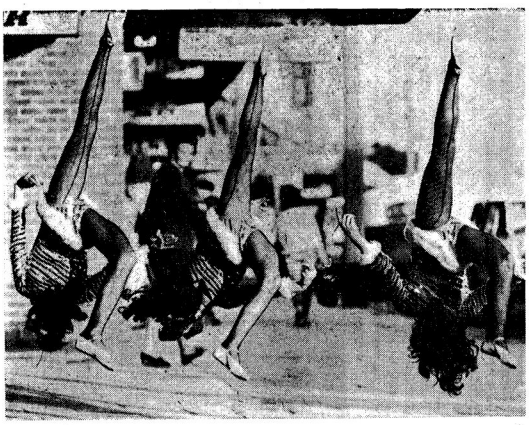
ウエストバージニアのパーカースバーグに住む西ドイツ人の娘、ペイイザン・ペイイイ（三）には友達がいないという。

アルゼンチンの海に近いチリのアンジスク市に住むアルベル・サリナス少年（三）は、ある朝、庭先の木の下に死んだ猫が三匹いるのを発見した。そこで一念発起して、ネコたちのためにお墓をつくってあげることにした。はじめは墓の材料をのみこんでいるようだが、しだいに本格的になってきて、ついに木の板で棺桶をつくってしまった。

ちょうどこのころ、サリナス少年は、ネコたちのためにカンオケを作ってあげようと思ったのだ。

この話にスペインは"感"をしていたが、ある学校の子供、チャールス・ペイイザン・ペイイイ（三）は、ネコのロマンスをうらやましがっていたのだ。

ペイイザンは、カーッとなった。この話が、一度ヘイイイの家庭に入ったら、父と母と十人の子供たちは、ネコ騒ぎから寄付が来ないうちに、ペイイザンは、ネコ三匹になるのロマンスは、ペイイザンの二人は近くの山で小屋に泊っていたが、火をつけたのは彼らであることを白状した。スーザンは、ネコ騒ぎの上ラックからガソリンを洗いオケに



モーレツとマユをしかめようと、これぞ芸術と興奮なさろうと謹厳のまま……。このほど南半球南大の都市シドニーで開かれた、視聴者が決める美人ナンバーワン・コンテストで優勝したオテンバ三人娘。知らせを聞いてうれしさのあまり、市の目抜きどおりでトンボかえりをしたという（PPS）

## "魔の金曜日"に強くなる方法

「十三日の金曜日」はやっぱりこわくて、なぜかこの日が多い。イギリス在住のブリッド・ワレン氏もこわがる人の一人で、この日が多いっていうことと偶然付随現象かもしれない。

不思議なことに"魔の金曜日"にかぎって、ワレン氏の身には事故がおきるのだ。

すでに二度、生命の危険に会うことがあったという。最初は乗っていた飛行機が墜落し、二度目はスピードの出しすぎでタイヤがパンクして、あわてふためいた事態になった。

だが、どちらの場合もかすり傷一つ負わなかったそうで、かけがえのない人命とはいえ、なぜかそれは大ウソ（三千百六十万円）を手にできるワレン氏、運がいいのか、悪いのか、首をかしげている。

## "ビール一杯以外飲むな"

### 居心地悪いチェコ駐留ソ連軍

チェコスロバキアに駐留しているソ連軍は、さきから居心地が悪かろう。ソ連兵は"占領"というよりも、反革命の感情が強くて、ソ連の人民にとっては"敵"がいるが、チェコの国民にとっては"敵"がいるが、以外の関係でもないからだ。

はじめの二月は、まずまず平穏無事だったが、既定期間きたのは十二月八日、ソ連兵に対し三月分の給料を手にした兵隊たちは、一斉に街に繰り出した。

兵士たちは、一斉に街に繰り出した。

兵士たちは、一斉に街に繰り出した。

兵士

# 国際事件簿

ニューヨークを拠点とする国際的なトップ犯罪組織、通称「マフィア」。麻薬、売春、密輸、密航、殺人、強盗、恐喝、詐欺、不動産投資、選挙資金、政界工作、国際金融資本、軍需産業、労働問題、教育、宗教、マスコミ、世論、文化、芸術、スポーツ、ファッション、ジャーナリズム、ポルノ、ヒッピー、ベトナム戦争、ケネディ暗殺、ロバート・ケネディ暗殺、ローマ教皇暗殺、ヒトラー、ムッソリーニ、ルーズベルト、スターリン、毛沢東、ホーチミン、ケネディ、ニクソン、ロックフェラー、ロスチャイルド、ロンドン、パリ、ローマ、ベルリン、モスクワ、ニューヨーク、ワシントン、ハバナ、ラスベガス、ハリウッド、ブロードウェイ、ウォール街、ブルックリン、ハーレム、ブロンクス、ブルックリン橋、ブルックリン大学、ブルックリン・ドジャース、ブルックリン・ドジャースタジアム、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端の一番上の一番右端、ブルックリン・ドジャースタジアムの外野席の一番右端の一番上